

はじめに

近年、歯科医療は「歯の健康」だけに焦点を合わせるのではなく、健康寿命を延ばすための医療として考えられるようになりました。歯科口腔保健の推進に関する法律（2011年8月）や21世紀における第二次国民健康づくり運動〈健康日本21（第二次）〉（2013年4月）が実施され、全身との関わりにおける歯周病予防、う蝕予防や口腔保健の推進に積極的に取り組む必要性が強調されています。さらに、口腔疾患、特に歯周病が、全身疾患と深く関わっていることがあきらかにされており、私たち歯科医師や歯科衛生士が行う歯周治療や歯周病予防が、患者さんの全身状態の改善にもつながることが証明されつつあります。これからの歯科医療は、今までの単なる局所的な治療の提供だけではなく、生活支援や生活の質（QOL）の向上という視点から捉えることが必要です。

“かかりつけ歯科医院”として、長期にわたって患者さんの「口腔の健康を守る」ためには、常に患者さんの口腔内の変化を見極める診断力が必要です。特に女性の患者さんの場合は、女性ホルモンなどの影響で、思春期、妊娠・出産期、更年期や更年期以降のステージで歯周組織に変化が生じるため、ライフステージにおける特有の症状を理解したうえで対応することが肝要です。このような観点から、本書では、女性のライフステージ別に歯周病とう蝕の特有の症状と治療・予防・患者指導での要点をまとめました。

本書の内容を理解された歯科医師、歯科衛生士の方々が、実際に患者さんに対してライフステージに合わせた歯周病とう蝕の予防の説明・指導に活用していただければ幸いです。

日本は、世界有数の長寿国になり、特に女性の平均寿命は世界一です。女性が更年期以降、健康で文化的な毎日がおくれる生活の質（QOL）を高め、長寿を謳歌することが重要な課題となります。歯周病とう蝕の予防・治療・管理が、単なる口腔内のヘルスプロモーションだけでなく、全身のヘルスプロモーションへ貢献すること、さらに、子孫のヘルスプロモーションへの第一歩であることを広く認識していただけることを期待しています。

和泉雄一